

澤田さん、102歳

米田さんは100歳

祝福の拍手を浴び祝う会

特別養護老人ホーム「つねとり荘」(齊藤正明施設長、入所者60人)で、8月15日

澤田タマさん(沢向)が102歳に、同27日には米田キクさん(白井)が100歳の誕生日をそれぞれめでたく迎えました。



102歳の誕生日を迎えた澤田タマさん

澤田さんは明治36(1903)年、米田さんは明治38年(1905)年生まれ。それぞれの誕生日に併せて長寿を祝う会は行われました。

15日に行われた澤田さんの祝う会と27日に行われた米田さんの祝う会には、親族の皆



米田キクさんは100歳の仲間入り

さんのほか深渡宏村長、普代福祉会の野崎幸太郎理事長も駆け付け、お祝いの言葉や長寿の証、花束などが手渡され、皆さんから祝福の拍手を浴びていました。

久慈管内の100歳以上は8月末で15人。そのうち村の100歳以上は、5月に10

6歳の誕生日を迎えた畠中才工イさん(太田名部)を筆頭に、102歳の澤田さん、100歳の米田さんの3人。皆さん同荘に入所しています。

さん、藤島家当主健佑さんお二人に「幕府軍宿泊の伝承や何か書き物など残っていないか」と尋ねたことがあったが、どちらも「何もありません」とのご返事であった。賊軍となった幕兵を泊めたことすら罪を問われる時代であるから子孫に伝える話ではなかったであろう。妙相寺については昭和初期にご住職が交代しておられ語り継ぎはない。

加藤貞仁氏という方からご教示の新材料は、明治の元勳、大山巖元師の二男大山山柏(明治二十二年生まれ、昭和四十四年 没八十歳)という人が死去の前年の昭和四十三年という比較的近年に「戊辰役戦史上・下」として時事通信社から出版したものである。

この本は比較的新しい資料であるため以前の宮古湾海戦の研究書には引用されていない。筆者はこの本を東京都港区の都立図書館で見つけた。前述の通り普代村郷土史に挿入補完したが、ここで再度ご紹介しておく。

明治二年三月二十五日、宮古湾碇泊の官軍軍艦は四隻、運送船四隻計八隻である。この日払暁、函館から南下した幕府軍艦「回天」が官軍の



幕艦「高雄」(「広報たのはた」から)

携行した。収容した人員フランス人一人を含む七十人を盛岡藩に引き渡し、同藩はこの人数を東京に護送した。官軍方は戊辰丸を除く全艦船は三月二十六日青森に入港したという。

「甲鉄」を襲撃した際、官軍方運送船戊辰丸は故障で進退が自由でないところへもってきて宮古湾では「甲鉄」の近くに碇泊していたため「回天」の砲撃を受け損傷した。そのため北行をやめ東京に引き返すことになったが、乗り込んでいた三十六人の薩摩藩兵は下船し、幕艦「高雄」から下船上陸した幕府兵を討伐することになった。

上陸した官軍方は盛岡藩の出先とも連絡、「高雄」乗組員の行方を探したら普代村に滞留して進退に窮していることを知り、三月二十八日沼袋村に達したところ、普代滞留の高雄乗組兵は降伏の意のあることを知った。翌二十九日普代村にいたり降伏を認めて武装解除した。押収した武器は盛岡藩には渡さずに青森に

携行した。収容した人員フランス人一人を含む七十人を盛岡藩に引き渡し、同藩はこの人数を東京に護送した。官軍方は戊辰丸を除く全艦船は三月二十六日青森に入港したという。

これほどの大事でも普代村には公式には何の記録も残されておらず一般には伝承されない。このことについては昭和五十九年に九戸郡山形村の二又幸四郎氏は山形村の旧家から発見された古文書により、この「高雄」乗組員一行が野田代官所から盛岡に向かう途中護送車加え百人余りが山形村の関に逗留していることを、北三陸史窓二号に「宮古海戦と山形村」という題で発表され、「これ程の大事事件があつたのに我々の祖先の云い伝えは絶無であつたのは不思議なくらいだ。当時の軍艦の威光や推して知るべし」と述べておられる。

どこの村々でも幕府軍の通過したことに對しては厳しい箝口令がしかれたものらしい。徳川時代から明治維新政府への移行期、たとえ南部盛岡藩の片田舎であつたわが普代村にも右のような歴史的事実がありました。(参考文献本文中)